

瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターの紹介と技術職員に期待すること

瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター長 前田 照夫



瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターは、4つの部門（陸域生物圏部門、動植物精密実験部門、食資源機能開発部門および海域生物圏部門）より構成され、農場、家禽・家畜舎・家畜環境制御実験棟・圃場、食品製造実験実習工場棟・工作機械実習棟および水産実験所の施設を有しています。平成22年度に農場関係施設が、また、平成24年度には水産実験所と練習船「豊潮丸」が、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点に認定されました（農場関係施設の拠点名：食料の生産環境と食の安全に配慮した循環型酪農教育拠点；水産実験所の拠点名：瀬戸内海における里海学フィールド教育拠点；練習船「豊潮丸」の拠点名：瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点）。

教育関係共同利用拠点制度とは、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進する制度です。平成21年9月、文部科学大臣により「教育関係共同利用拠点」の認定制度が創設され、国公私立大学全体で教育関係共同利用拠点の整備を推進することとなりました。なお、教育関係共同利用拠点の対象には、練習船、農場、演習林、留学生関連施設、FD・SDセンターなどがあります。

一部局で3つの拠点認定を受けた大学は、全国的にも例がありません。3つの施設が拠点認定されたということは、広島大学大学院生物圏科学研究科および生物生産学部の附属施設（瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターと練習船「豊潮丸」）が、教育・研究に共同利用可能な充実した施設であり、より発展が期待できる施設として文部科学省より認知されたと考えられます。

現在、農場に10名、家禽・家畜舎・家畜環境制御実験棟・圃場に1名、食品製造実験実習工場棟・工作機械実習棟に3名、水産実験所に2名の技術職員が配属されています。それぞれの施設で要求される技能や技術は異なりますが、これらの技術職員は、大学院生物圏科学研究科および生物生産学部の教育・研究を進める上で、教員とともに重要な位置づけにあります。

先に記述した共同利用拠点事業の遂行のためにも、技術職員の協力は不可欠であり、技術職員にも、より高度な技能や技術の修得が要求されることになってくると考えられます。従って、技術職員の方には、日々のルーチンワークを確実にこなすとともに、各施設で要求される高度な技能や技術の研鑽にも日々心がけていただきたいと思います。